

認定NPO法人

国境なき子どもたち



2023年度活動報告書

Annual Report 2023

国境を越えてすべての子どもに**教育**と**友情**を

—ご挨拶—

ビジョン (KnKが目指す社会)

KnKは以下の社会をつくることに貢献します。

- ・子ども一人ひとりが教育を受け、夢を描ける社会
- ・子ども一人ひとりが尊重され、安心して健やかに成長できる社会
- ・子どもたちが互いの違いを認め合い、友情を育み、共に成長できる社会

ミッション (KnKが果たす使命)

KnKは、ビジョンを実現するため、以下を使命とします。

- ・教育や職業訓練、自己表現の機会を提供し、子どもたちの将来の選択肢をひろげ、その健全な社会参加を後押しします。
- ・貧困や紛争、災害で困難な状況にある子どもたちに寄り添い、その成長過程にふさわしい生活を送れるよう手助けします。
- ・日本の子どもたちが、世界の子どもたちの抱える現状を知り、多様な価値観を学び、互いに支え合える次世代を育成します。

バリュー (KnKが大切にすること)

KnKは、子どもと子どもに関わるすべての人と共に成長するために、以下のことを大切にします。

子どもたち: 出会った子どもをあるがまま受け入れ、その可能性を信じ、大切な存在として向き合います。

支援者: 支援者と子どもをつなぐ架け橋となり、子どもたちの声や成長の様子を届けます。

現地パートナー: 事業を共に実施する現地パートナーの価値観・経験を尊重し、信頼関係を築きます。

市民社会: 支援金を有効活用し説明責任を果たすよう努め、世界の子どもたちの現状について情報発信します。

国境なき子どもたちで働く仲間: 主体性と向上心を持って考え行動し、子どもたちの未来のために協力し合います。

共に成長するために

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



2023年も無事に活動を続けてこられましたのも、変わることなく私たちを見守ってくださいました皆さまのおかげと、深く感謝しております。

これまでの日々を思い出すなかで気が付いたことがあります。KnKの長い年月続けてきた「小さな積み重ね」ということです。

私は2000年初めてフィリピンのパヤタス(ゴミ山)の子どもたちの「学び」に出会いました。そこでは親たちが資源ごみなど拾い集めて生活の糧を得ていました。当時大人の一日の稼ぎが1ドル程度、子どもが何人もいれば親の半分程度は稼ぐことができる。だから「学校へ行くなど無駄な時間は過ごさずに働け」という親たちの考えが一般的でした。スタッフたちは、子どもたちに「学びのチャンス」を広げると同時に、親たちの元に何度も足を運び、学ぶことの意義を理解してもらえよう話し続けました。そして、寺子屋のような形式で「週一日何時間かの学びの場」に何人かの子どもたちが集まり始め、仲間が増え、字を覚えてゆき、さらには学業修了検定を受ける方向へと進んでいきました。今は優秀な成績で表彰される子どももいます。こうして「学び」が生活に取り入れられていきました。「積み重ねることは大きな力」です。

また、今回の皆さまへのレポートにありますように、パキスタンでの女子教育にも明るい光が見えてきています。2005年の大地震のあと、KnKは山深い地方の多くの学校の建設に関わりました。その落成式に出る機会があったのは10数年前でした。式典では地域の有力者たちと挨拶を交わしながらも社会の伝統的な背景も強く感じられ、今後のこの地での女子教育は難しいのかしら、などと考えつつ教室に入りました。その時、生徒たちから矢のような質問が…「日本では何の勉強をするの? 何をして遊ぶの? どんな格好をしていくの?」…

日本の生徒と変わらない屈託のない笑顔と溢れる元気でした。現在KnKは女子教育の普及に力を入れています。実際に女子生徒自身の学ぶことへの熱意は非常に向上しています。それと同時に行政サイドの女子教育へのサポートが大きくなっていることがわかります。トイレが清潔で安全になることでも女子教育への人々の熱意は変わるのです。「積み重ねることは大きな力」です。

小さな一歩を重ねることで、大きな山に登れるのです。

どうぞ皆さま、その一歩を共に歩いてくださいますよう、お願いいたします。

2024年5月1日

認定NPO法人 国境なき子どもたち (KnK)

会長 寺田朗子



子どもたちをめぐる課題とKnKの教育支援活動

カンボジア

2000年に開設した「若者の家」がある西部のバタンバン州は、カンボジア教育省の統計によると、高校の総就学率が未だ30%（2021年）しかなく、家庭の経済的な貧困を背景に、多くの若者が卒業を前に学業を離れ、労働に従事しています。

隣接するパイリン州とバンテアイミエンチェイ州においても、例えば前者における中学校退学率が17.4%と高い数値が示すように、学校を中退する若者、学校に通えない子どもが多く、若者は将来の計画を立てられず、不安定な就労状況にあります。

- 極度の貧困などで自力では教育を受け続けることが難しい青少年に、教育機会を提供します。
- 職業技能や生活力を十分に持たない若者に、職業訓練やライフスキル研修、就業機会を提供します。
- 若年層女性が、商品の生産から販売までを完全に独立して行えるよう、サポートします。



職業訓練を経て縫製の仕事を
する女性／カンボジア

フィリピン

目覚ましい経済成長の一方で、所得配分が不平等である社会構造は以前から指摘されていますが、新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウンが追い打ちをかけ、2022年には貧困層の40%の収入が減少し、経済格差はこれからさらに拡大すると見込まれています。²

収入減、雇用不安、食料品の価格高騰を受け、貧困層の家庭では食費を削る選択をせまられ、子どもの健康に影響も与えています。また、貧困層は高等教育までの継続が困難な傾向にあり、将来の就労と収入増の機会を失っています。³

(*)1 JICA フィリピン共和国 貧困プロファイル

(*)2 (*3) World Bank : Overcoming Poverty and Inequality in the Philippines : Past, Present, and Prospects for the Future (worldbank.org)

- 虐待・育児放棄を経験した子ども、法に抵触した青少年らを保護し、生活・教育支援を行います。
- スラム地域の子どもの若者に、教育の機会を提供し、彼ら自身のコミュニティ活動を応援します。
- 子どもたちのため、保護者自身が活動に参加し、自ら学び工夫できるよう、働きかけを行います。



年少の子どもの面倒を見るセン
ターの少年たち／バングラデシュ

バングラデシュ

家庭の経済的貧困や暴力、育児放棄などが原因で、家を出て路上生活する子どもの数は、首都ダッカだけでも30万人いるといわれ、2011年に開所した「ほほえみドロップインセンター」に通う子どもの人数も減少しません。

路上生活は、食事の栄養が偏り、汚染された川で身体や衣類を洗うなど、健康面に深刻な影響を与えています。また、善悪の判断力が育まれなかったため危険な状況に巻き込まれることもあり、暴力や薬物、犯罪などに手を染めるケースも少なくありません。一方、子どもの権利に対し無理解な大人も多く、子どもたちの生活エリアを行き交う大人から暴力をふるわれることもあります。

- 安心・安全に過ごせる居場所をつくり、路上の子どもたちが、健やかに成長する機会を提供します。
- 地域で啓発活動を行って関係を構築し、連携して子どもたちを見守る協力体制を整えます。

ヨルダン／シリア難民

難民を受け入れ、学校では他国籍の生徒も多く学ぶヨルダンでは、中途退学や児童就労などの課題と常に直面する中、コロナ禍の1年半におよぶオンライン教育は、難民や貧困家庭の子どもたちへとりわけ大きな影響を及ぼし、不就学や学力低下が著しくなっています。元々、学力重視の傾向が強い社会において、ヨルダン教育省は、学校と家庭、地域の協力による児童の社会的成長を図ってきましたが、その取り組みは十分ではありません。

一方、2013年から支援を続けるザアタリ難民キャンプでは支援団体がさらに撤退し、学校外の子どもセンターも半数が閉鎖するなど、子どもたちを取り巻く環境は、より一層厳しくなっています。

パキスタン

パキスタンにおけるジェンダー格差の問題は、南アジアの中でも特に顕著で、ジェンダーギャップ指数の総合順位は世界146カ国の中で142位に位置し、女子の識字率の低さや不就学児童の割合の高さが明らかです。

他州と比べハイバル・パフトゥンハー州は教育のジェンダー格差が大きく、青少年（15～24歳）の識字率では男子85%に対し女子が49%と、その改善が喫緊の課題となっています。特に農村部では女子が通学可能な中学校、高校が圧倒的に不足しており、さらに、早期結婚や伝統的価値観、貧困状況と児童労働などが平等な教育機会を妨げています。

(*)4) Pakistan Social & Living Standard Measurement Survey(PSLM) 2019-2020

- 教育関係者が、特別活動を継続的に実施・普及できるよう、基盤となる環境を整備します。
- 学校と保護者の連携を図るため、学校への保護者参画機会づくりに取り組みます。
- 難民キャンプで、アラビア語の強化と生徒の個別サポートを継続します。



真剣な眼差しで授業に臨む女子生徒たち／パキスタン

- 女子の教育へのアクセスを強化するため、小学校・中学校・高校の環境を整備します。
- 女子生徒がライフスキルを高め、教員・PTAが生徒をサポートできるよう、各研修を実施します。
- アドボカシーの活動範囲を州レベルまで広げ、女子教育の支援の波及を図ります。

パレスチナ

ヨルダン渓谷は、地域の88%が治安・行政をイスラエル軍に管理され、イスラエル入植地や入植農園が入り組んでいます。さらに、入植予定地において立ち退きや家屋破壊の対象となる、嫌がらせを受ける、軍の訓練が行われ爆発性残存物で負傷するなど、占領の影響を大きく受けています。

図書館や児童館などの公共施設や、安全に遊べる公園などもなく、子どもたちは安全でない道端や山で遊んでいます。若者は多くの時間を家で過ごし、地域に貢献したい思いがあっても実践の場がなく、「人生で何も達成できていない」「自分の人生はお茶を飲むことだけ」と答える人もいます。



子ども向け活動に参加する
子どもたち／パレスチナ

- 若者自らが地域活動、青少年向け研修、子ども向け活動を自律的に実施できるよう、能力を育成します。
- 子どもたちに毎週子ども向け活動を実施し、子どもたちが安全に楽しく過ごせる場所を提供します。

■カンボジア■

“KnK 事業終了後も地域主導で若者に職業訓練を継続しています”

大きな動きとして、パイリン州における若者の就労支援事業が、2023年3月に終了しました。KnKの事業後も、地元教育局や、修繕を行ったコミュニティ・ラーニング・センターの運営委員会、職業訓練の講師らが職業訓練を継続し、若者や地域住民が技能を身につける機会を得られています。センターでは新しいクラスが開講され、センター同士で活動を報告し合う様子も確認され、KnKの活動や想いがコミュニティに引き継がれていることを大変うれしく思います。

同じ3月からはバンテアイミエンチェイ州において若者の就労支援と並行し、小学校を中退退学もしくは学校に通っていない子どもに対する教育支援を開始しました。読み書き計算ができるようになり、小学校修了の資格を取得し、中学校へ編入できた児童もいます。職業訓練では、コース選定の際に就職の可能性がありそうな店舗を500軒近く訪問し、現地のニーズを把握したうえでコースを決定しました。



カンボジアスタッフ



■ヨルダン／シリア難民■

“子ども同士で励ましや助け合いができるようになりました”

ザアタリ難民キャンプとヨルダンのホストコミュニティに共通し、学校や地域、保護者と連携して子どもたちが意欲を高め、安心して通学を継続できるような環境を整備することに、改めて着手しました。活動に参加する教員は、社会性を中心に、学力だけではなく個々の児童の性格や良さに目を向けられるようになり、ヨルダンの学校教育では注力していなかった細やかな視点に価値を見出せるようになりました。

子どもたちについては、日直や学級会など

の活動を通じて、人前で話すことで自信がついてきた、日直の児童が言葉に詰まると他の児童が助け励ます姿が見られた、話し合いのマナーの大切さを学び、クラスメイトの発言を尊重できるようになった、人と違った発言を正否で判断することがなくなった、チーム活動を通じて手助けや励ましができるようになった、高学年の協力的な姿勢を見習う下級生の様子が見られたなど、子どもたちにも具体的な変化が見られるようになりました。



ヨルダンスタッフ



2023 年海外事業ふり返り

■フィリピン■

“行政や現地 NGO などと連携し活動が広がりました”

2023年、子どもたちが教育を受け、スポーツや芸術活動に参加し、自分の可能性を伸ばして意見を表明できるよう、スタッフや保護者らが学び工夫し、関係者と協力しながら活動を実施しました。「若者の家」から通学する子どもの中には、成績優秀で表彰された生徒がいたことに加え、学校の活動への積極的な参加や協力、前向きな姿勢も見られ、学校教員からも信頼されていたと、現地から報告がありました。

また、現地チームは助成機関や政府組織、

他 NGO などとのネットワークづくりを進め、地域内での結びつきが強くなってきました。その結果、図書やマットレス、ガーデニング用品などの物品寄付に加え、無料ワクチンや健康セミナー、ガーデニング研修、ノンフォーマル教育の会場や教材提供などで協力を得られるようになりました。活動する若者たちも、自分たちでスポーツや文化的な活動を企画、運営することに興味を持ち、スキルの向上につながっています。



フィリピンスタッフ



■パキスタン■

“自分に自信を持つことができる女子生徒が増えてきました”

2017年よりハイバル・パフトウンハー州で展開した女子教育向上事業が、2023年11月にいったん終了しました。パキスタン北西部においてKnKがこれまで建設に関わった学校は、通算で89校に増えました。2023年に新しく建った女子中学校では、校庭や廊下で授業を受けていた生徒たちが、快適な環境で質の高い教育を受けられるようになりました。さらに、ティーンエイジャーだからこそ身につけてほしいライフスキルを学ぶ機会をKnKから提案し研修を実施したところ、意欲

を持ち、自信を持って自己アピールできる女子生徒が、格段に増えました。加えてここ数年はアドボカシー活動にも注力し、地域から州レベルまで、支援の波及を図っていきました。女子大学生グループ「ガールズ・ユース・アンバサダー」をはじめ、教員や保護者など、特に周縁化された地域の女性たちが活躍し、女子教育の向上のために社会で変化をさらに起こしていくことが期待されます。



パキスタンスタッフ



■バングラデシュ■

“「子どもたちのために」スタッフ一丸となっています”

「ほほえみドロップインセンター」では2023年8月、日本から二人の「友情のレポーター」を迎え、子どもたちは遠足など普段とは違う特別な時間を過ごしました。日本の同世代との交流や日本文化に触れる機会は、センターの子どもたちにとっても良い刺激となり、また、「レポーターたちの礼儀正しさやマナーを守る態度に感心し、自分も見習いたいと思った」、というコメントも寄せられました。

11月には、路上で生活する子どもの実態調査を本格的に実施し、まだセンターに来た

ことのない子ども102名に聞き取りを行いました。開所から12年以上経過した今、「子どもたちのために、自分たちはさらに何ができるか」、スタッフらは最善を尽くすべく、これからの活動方針について互いに意見を出し合いました。常にぶれることなく、「子どもたちのために」を念頭に活動をしている姿勢が、子どもたちにとっては「温かさ」になり、地域住民には「信念」に映るのではないかと考えられます。



バングラデシュスタッフ



■パレスチナ■

“不安定な中でも日常を送れるよう、若者自ら活動を再開”

特に2023年10月7日以降、パレスチナは情勢がより不安定になり、攻撃や暴力を身近に感じるが多くなりました。そのような中、いったん中止した子ども向け活動を再開しようと若者が立ちあがり、地域の方から資機材や活動場所の協力を得て、自分たちで活動を提供しました。「特に情勢が不安定な中では、日常を送ることが大切」と、安全を確認し、早期に活動を再開しました。

若者向け研修では、楽しく前向きな時間を過ごそうと、若者たちが積極的に研修に参

加するようになり、「外からの影響を受けても、自分たちの意志で地域をよくしよう」という思いを強く感じる年となりました。今後、彼らは研修で学んだことを活かして地域活動を展開していきますが、誰か支援してくれる人が地域に来るのを待つのではなく、自分たちで地域をよくしよう、地域のために働こうという事業の土台が2023年にできま



パレスチナスタッフ



カンボジア

「友だちがたくさんできて、学校が楽しいです」



ヴァンニー ラクサー (共に12歳) KnKの同性教育クラスを受講

ヴァンニーとラクサーはいとこ同士です。二人は幼い頃から親の出稼ぎについてタイで暮らし、2023年5月にKnKの教育支援を受けるまで、学校に通ったことがありませんでした。今回、両親の後押しもあって、開講と同時にKnKの同性教育クラスに参加し、学習に励みました。そして、12月にクラスを修了し、同じ月から小学校へ編入、ヴァンニーは小学5年生、ラクサーは小学2

年生の授業を受けています。

授業はまだ少し難しいようですが、「家にいなければいけなかった頃は、ずっと暇でつまらなかったけれど、今は楽しい。友だちがたくさんできた」「自分のクラスだけでなく、他のクラスの子もみんな知っているよ」と誇らしげに話してくれました。二人とも、学校生活を満喫しているそうです。

(*) 公教育から、鍵となる学習内容を選んで実施する公教育プログラムの一つ。学校に行けない子ども・若者が授業を受け、試験に合格するとフォーマル教育修了と同等の資格を得られる。

バングラデシュ

「自分の将来について考えられるようになりました」



ラムジャン (15歳) 2020年11月からセンター利用

「ほほえみドロップインセンター」は清潔で、路上では得られない色々な支援を受けることができます。センターのおかげで、毎日の生活が楽になります。センターが開まっている日は、特にそれを感じます。一番うれしいのは、センターでゆっくり体を休められることと、シャワーを浴びられることです。僕はふだん早朝から仕事をするので、日中、静かに眠れる場所があるのは、とても助かります。健康状態もよくなりました。あとは、以

前は、将来のことについて考えたこともありませんでしたが、スタッフと話をして、自分の将来について考えるようになりました。今はお金をがんばって貯めています。

2023年の思い出は、日本の「友情のレポーター」と遠足に行き、交流できたことです。外国の子どもたちと出会う機会なんて、これまで一度もなかったですし、レポーター二人は僕たちととてもたくさん遊んでくれたし、優しく接してくれました。

「自分の存在が少女たちの希望であることに気がきました」

パキスタン



ソビア (25歳 / 大学生) ガールズ・ユース・アンバサダー

私は、女子中学生・高校生のロールモデルとして任命された「ガールズ・ユース・アンバサダー」という大学生グループに所属し、女子教育の向上のために活動しています。彼女たちの話を聴くことが大切な任務の一つですが、「より高い教育を受けたい」と希望を語るその声は、ただ理想や夢を単純に話しているのではなく、自分たちの思い通りにいかないもどかしさで震えています。学校までの交通手段の問題や早婚の不安、経済的なハードル、社会規範の重圧

といった数々の壁と闘っている苦しさや切実さがそこに込められていて、「自分たちが置かれた状況を打破したい!」と、未来を切望していることが分かりました。

私は、女子生徒たちとのやり取りの中で、大学まで進学した私の存在が彼女たちにとって希望の存在であることに気づかされました。彼女たちと同じような境遇で育った私自身の経験をもとに、「希望を失わないで!」というシンプルですが力強いメッセージを伝えました。

フィリピン

「一緒に暮らす仲間とバスケのリーグに参加しました」



ダイブ (14歳 / 5年生) 「若者の家」で生活

僕は、2023年4月から「若者の家」で暮らし始め、学校に通っています。学校では数学が得意で、宿題もがんばって取り組んでいます。あとは、学校のアクティビティも大好きです。毎週金曜日、「キャッチアップフライデー」というプログラムがあって、そこでは読書会や作文、ゲームなど、色々なことを皆で集まって楽しんでいます。

「若者の家」に来てから上手く出来るようになったバスケットボールも大好きになりました。バスケはチームワークが大切ですが、一緒に暮らす仲間たちと一つになっ

て、「KnKチーム」として地域のリーグに参加できることが、バスケをとっても好きになった理由です。仲間たちとは、「若者の家」の遠足で泳ぎにも行きましたが、それも今までに経験したことのない、忘れられない思い出です。

僕の夢は、学業を全うすること、仕事を得ること、素敵な家を持つこと、家族により良い生活をプレゼントすること、バスケや他のスポーツをもっとよくできるようになることです。

「研修に参加し、私自身が一番変わったと思います」

シリア難民 (ヨルダン/ザアタリ難民キャンプ)



アフーフ (47歳) 心理ケア研修の参加者

3歳から7歳までの息子4人と夫と、難民キャンプで暮らしています。日頃、子どもたちの相手をするに難しさを感じていました。長男は、物静かで穏やかな生徒だと思われていましたが、実際には他の生徒から盗難や暴力のいじめに遭っていました。その反動か、家では性格がガラリと変わり、兄弟をいじめようになってしまうようになりました。私はというと、子どもたちが悪さをした時には、彼らの嫌いなナスの漬物をわざと近づけて罰を与える、というようなことをしていました。

研修に参加して、私自身が大きく変わったように思います。これまで子どもたちに対して神経質になっていましたが、今はだいぶ落ち着きました。研修での学びの一つは「聴く」ことです。以前は、私が忙しい時に息子が何か話しかけてきても相手にしなかったり、適当に聞いてしまっていました。でも今は、自分の時間を惜しまず、彼の話に耳を傾けるようにしています。また、それぞれの年齢に合わせて対応を変えることも学びました。

「地域みんなが仲良く暮らせることを目指し活動を続けたいです」

パレスチナ



サラハ (19歳 / 電気技師) 地域活動を企画・実施

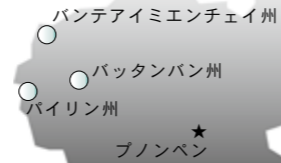
地域の子どもたちのために、ゲームやアートアクティビティを提供しています。研修で学んだゲームをそのまま使うこともあれば、一緒に活動しているメンバーと相談し、オリジナルのゲームをやることもあります。毎週みんな楽しみにしてくれていて、仕事の都合がつかず活動ができなかった時は、僕の家まで子どもがやって来て、「次の活動はいつ?」と聞かれたこともありました。

僕が小さかった頃の村は、家族同士で交わることがなく、違う家庭の子どもたちと一緒に遊んだこともありませんでした。活動を通じて地域の子ども同士が仲良くなれる機会を届けたかったので、それが出来ていると感じています。これからも村の人たちが距離を縮めて仲良く暮らせる村を目指し、サポートしてくれるボランティアを募って、今の活動をもっと大きく、そして長く続けられるようにしたいです。

カンボジア

青少年の教育・自立支援、コミュニティベース支援および若年層女性へのエンパワメント事業、青少年の就労支援

- 実施期間■ 2020年2月～2023年3月(パイリン州)、2023年3月～継続中(バンテアイミエンチェイ州)
- 実施地域■ パイリン州、バンテアイミエンチェイ州
- 裨益者とその数■ 職業訓練生など計570名(パイリン州の全事業期間)
子ども・若者など計299名(バンテアイミエンチェイ州)
- 助成■ 日本国外務省「日本NGO連携無償資金協力」



青少年の就労支援 (パイリン州)

職業訓練の場としてコミュニティ・ラーニング・センター(CLC)の環境を整備し、支援がこれまで届きにくかった若者に、より安定した就業につながる職業スキルを適切に提供し、貧困状態からの脱出を目指した。さらに、孤立する若者がうまれないよう、現地の関係諸機関とセーフティネットを構築した。

◇職業訓練◇

日雇いや出稼ぎなどの不安定な雇用状況にある中途退学者に、5カ所のCLCで9コース(美容、理容、エアコン修理、携帯修理、縫製)を開講。81名が訓練を修了、55名が訓練終了後に就職を果たした。



就職先でのフォローアップ

◇訓練修了生フォローアップ◇

この3年間で職業訓練を修了し就職した若者のフォローアップを実施した。特に、パイリン州内の勤務先の選択肢が多くはないため、遠方で就職したものの、家族の要望や修了生自身のホームシックなどにより、仕事を辞めて実家に戻ってしまう若者も少なくなく、就職先との交渉や就職継続などの調整、また若者の再就職支援などを行った。

◇CLC環境整備◇

この3年間で建設した5棟と修繕した4棟、計9棟の建物の状態を確認した。



新しく完成したセンター

青少年の教育・就労支援(バンテアイミエンチェイ州)

学校に通えないなどのリスクのある子ども・若者が、学校やノンフォーマル教育プログラムに参加し、将来につながる教育や技術を身に付けることを目標とし、ライフ・ロング・ラーニング・センター(LLLC)とCLCの環境整備と運営支援に加え、教育と職業訓練の2つの支援プログラムを実施する。

◇LLLC/CLCの環境整備と運営支援◇

オウチョロブ郡コブコミュニティにおいて、LLLC/CLCを1棟建設し、必要な資機材や職業訓練資機材、教育プログラム資機材を提供した。

州内全12カ所のLLLC/CLC運営委員会による会議を開催し、センター運営に必要な年間計画の策定方法、資機材管理方法などの情報を提供した。さらに保護者向けに教育の重要性を伝えるワークショップを2回実施し、計163名の地域住民が参加した。

◇教育支援◇

12歳から17歳の不就学や小学校卒業を前に中途退学してしまった子ども13名に同索性教育プログラムを実施し、6名がコース修了後に小学校修了資格を取得した。

◇職業訓練◇

オウチョロブ郡コブコミュニティのLLLC/CLCにおいて、エアコン修理と美容の職業訓練コースを開講し、合計60名が訓練に参加している。技術的な訓練とは別に、訓練生の若者たちが社会で生き抜く力を身に付けられるよう、ライフスキル研修を実施した。



エアコン修理の研修を受ける若者たち

青少年の教育・自立支援、若年層女性へのエンパワメント事業

■実施期間■ 2000年9月～継続中

■実施地域■ バッタバン州

■裨益者とその数■ 15歳から30歳までの子ども・青少年約70名

■助成■ 公益財団法人日本国際協力財団

近年、居住型支援に厳しい要件が設定され、子どもや若者たちが、家庭ないしコミュニティで生活しながら支援を受けることがカンボジア政府から推奨されていることを背景に、KnKでも「若者の家」を継続しつつ、コミュニティベースでの支援を本格的に開始した。

また、若年層女性のエンパワメント事業は、2023年に企業体として独立したが、販路の確保など部分的に支援を継続している。近い将来、生産者たちによる完全独立を目指す。



「若者の家」の子どもたち

青少年の教育・自立支援

◇「若者の家」◇

支援を必要とする若者を受け入れ、衣食住の支援と、教育や職業訓練の機会を提供した。2023年は12名が支援を受け、4名が高校を卒業し、大学に進学した。

◇コミュニティベース支援◇

18名が支援を受け、学校に通い続けることができた。18名の内、16名が進級でき、2名は職業訓練を受講する。



施設内の東屋で囲らする子どもたち

若年層女性へのエンパワメント事業

◇生産・販売活動◇

9名の生産者が現地市場で売れる商品の製作活動に注力した。販路拡大の支援や、収入で賄えない生産者の給与を引き続き支援してきたが、販売収入によって全コストの50%、人件費だけで考えると64%までカバーできるまでに至った。

これからも販売収入の増加に注力していくが、KnKカンボジアの事業スタッフが大部分を担ってきた委託販売先の拡大など、マーケティングや商品製作におけるマネジメントなども、今後は生産者自身で対応できるようにしていく。

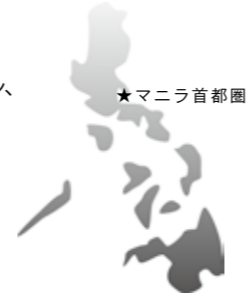
フィリピン

青少年の保護・教育支援、スラムにおけるコミュニティ活動

■実施期間■ 2001年7月～継続中

■実施地域■ マニラ首都圏ケソン市パヤタス、カラオカン・サウス市、カラオカン・ノース市グアダノービル、バゴンシーラン、マラボン市、ナボタス市、パサイ市、リサール州カインタ市、ブラカン州マロロス市

■裨益者とその数■ 6歳以上の子ども、青少年、保護者 1,872名



「若者の家」

◇子どもの保護・教育◇

虐待・育児放棄を経験した子ども、ストリートチルドレン、法に抵触した青少年ら 29名が生活した。2023年8月以降の学校年度は17名が通学し、2名がノンフォーマル教育を受講した。2022年度（2022年8月～2023年6月）は7名が通学、1名がノンフォーマル教育を受講した。

◇アクティビティ◇

音楽、工作、バスケットボール、ガーデニング、映画鑑賞、読み聞かせ、グループシェアリングなどの活動を実施した。最小限のアドバイスを受け、子どもたち自身が活動を企画できるようになった。

◇心理ケアサポート◇

外部の心理ケア専門家や「若者の家」常駐ソーシャルワーカーが定期的にカウンセリングを実施し、子どもたちにとって、自身の感情、行動、考え方についてより理解する場となった。

◇保護者向けセミナー◇

4回実施し、家庭内での課題解決、思春期の子どもの変化、子どもの権利などを扱った。子どものことを理解したい気持ちから、回数を経るごとに参加者が増えた。

◇子どもたちとスタッフの会議◇

月2回実施した。子どもたちから挙げられた課題やニーズは必要に応じてスタッフミーティングなどで取りあげ、解決や改善につなげた。



大好きなバスケットを楽しむ「若者の家」の子どもたち

コミュニティ活動

(バゴンシーラン地域、パヤタス地域)

◇ノンフォーマル教育◇

バゴンシーラン 90名、パヤタス 146名が登録。学校に通っていない青少年を把握し参加を呼びかけた結果、登録者が昨年より増加した。

◇公教育修了の資格試験◇

バゴンシーラン 14名、パヤタス 39名が学習記録、エッセイなどの審査に合格し、公教育修了と同等の資格を得た。

◇補習授業 / 課外活動◇

バゴンシーラン 156名、パヤタス 132名が参加。補習授業には青少年がボランティアとして協力した。子どもたちは試行錯誤しながら問題に取り組むことに興味を持ち、グループアクティビティを通して意見交換に参加するなど、コミュニケーションスキルの向上も見られた。

◇奨学金の給付◇

バゴンシーラン、パヤタスの青少年、「若者の家」卒業生計 18名に奨学金を給付し、公教育通学を後押しした。

◇コミュニティ活動◇

バゴンシーラン 284名、パヤタス 196名が参加。ポスター作成、季節のカード作成などを企画した他、他団体による女性の権利セミナー、リーダーシップ研修、収入創出活動などに参加した。

◇保護者活動◇

バゴンシーラン 262名、パヤタス 130名が参加。パヤタスでは子どもセンターでガーデニングを行った。

青少年収容所 (政府施設)

KnK フィリピンが資金を獲得し、6カ所で活動を実施し、434名を対象に教育活動を実施した。また、保護者セミナーを実施した他、医療系の団体と協力して診察も行った。

バングラデシュ

ストリートチルドレンのためのドロップインセンター運営

■実施期間■ 2011年9月～継続中

■実施地域■ ダッカ管区ダッカ県ケラニゴンジ郡 (ショドルガット船着き場)

■裨益者とその数■ 6歳から17歳までのストリートチルドレンのべ約 9,700名

■パートナー■ Society for Underprivileged Families (SUF)



「ほほえみドロップインセンター (DIC)」

首都ダッカと各地方を結ぶ玄関口、ショドルガット港で生活する子どもたちをサポートする「ほほえみドロップインセンター (DIC)」は、平日 (日曜日から木曜日) の9時から17時まで開所し、ソーシャルワーカーや教育係など5名のスタッフが、1日約40名を受け入れている。

◇日々のサポート◇

朝・昼の食事の提供、ケガの応急処置、教育活動、啓発活動、睡眠場所の提供、レクリエーションなどを行った。のべ約 9,700名の子どもたちが来所し、これらの活動に参加した。スタッフは、子どもたちが DIC を安心できる居場所として感じられるよう努めた。

◇地域の啓発活動◇

過去12年間の実施により、地域住民が「子どもの権利」の理解を深め、子どもたちへの暴力や非行などへの抑制につながったと、スタッフや子どもたちから語られた。

◇路上調査◇

仕事や居場所を求めて各地を転々とする移動性の高さがストリートチルドレンの特性と言えるが、現在も多くの子どもたちが他地域からショドルガット港にやって来ることが確認されている。特にコロナ禍以前より現場で言われていたのが、路上で生活する女子の増加であり、改めて子どもたちの現状を理解するための大規模な聞き取り調査を実施した。



路上にいた少女に事情を聞くスタッフ



栄養ある食事で体も丈夫に



識字の勉強も生き抜く力となる

調査は11月に5日間かけ、DIC近辺で現地スタッフにより行われた。出身地、主な居住場所、仕事や収入などについて、DICに通ったことのない子どもを対象に計102名へ聞き取りを実施した。今回の調査から、路上で生活する子どもの4割が女子、1年以内に路上生活を始めた子どもが3割、そしてショドルガット港で支援を受けたことがないと回答した子どもが約9割であった。

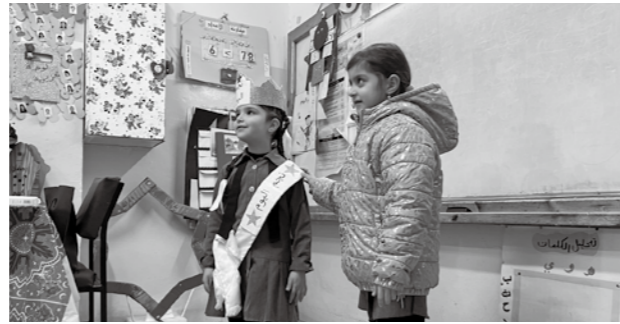
日々多くの子どもが支援を必要としていることが確認され、特に女子の増加は予想以上であった。2024年は、女子のニーズにさらに対応すべく女性スタッフの増員など体制面の強化に加え、より広く多くの地域住民との連携強化を図るなど、活動面の拡充を計画している。

ヨルダン（シリア難民） 特別活動の継続的実施と普及のための基盤整備事業 シリア難民キャンプにおける支援継続

- 実施期間■ 2013年3月～継続中（ザアタリ難民キャンプ）、2023年1月～継続中（JICA 草の根技術協力事業第2期）
- 実施地域■ アンマン県、マフラック県（ザアタリ難民キャンプ含む）
- 裨益者とその数■ 公立校27校の教員950名、生徒10,605名及び保護者
- 委託元■ 独立行政法人国際協力機構（JICA）



2018年から2022年まで実施したJICA 草の根技術協力事業（第1期）では、子どもたちの社会性育成を目的とした日本式教育の特別活動を取り入れ、日直当番や学級会、縦割り班活動を首都アンマンの学校で展開した。これらの取り組みを通じて、子どもの社会性育成のためには低年齢からの指導が不可欠であること、また保護者や地域の協力の必要性が明確になった。



帰りの会での日直当番の様子

特別活動の継続的実施と普及のための基盤整備（アンマン、マフラック、ザアタリ難民キャンプ）

◇特別活動インストラクター研修◇

特別活動の自立的な発展のために、先行事業で実践に関わった教育局の職員や教員が普及の担い手となり、他の教員への指導ができる人材を育成すべく、インストラクター養成研修を計2回開催した。新たに特別活動を導入する学校での説明会や活動導入後のフォローアップ、モニタリングを行うなど、経験のある教員が中心となり、学校での活動実践に繋げていった。

◇学校への保護者参画◇

ヨルダンの学校は保護者との関係構築の経験が乏しい。学校での保護者参画の一環として、日直当番や学級会などの機会を活用した。

今年度は保護者を対象とした説明会、活動見学、アラビア語研修、子どもとの関わりについて学ぶ研修準備に取り組んだ。特に、難民キャンプでの保護者向けアラビア語研修では、保護者が子どもの学力を的確に把握し、子どもの学習への理解を深める機会となった。



教員対象の特別活動インストラクター養成研修

学習面の支援と生徒の個別サポート（ザアタリ難民キャンプ）

◇アラビア語の学習強化◇

難民キャンプでは、慢性的な学力の低さに加え、コロナ禍のオンライン教育を経て学力がさらに低下している傾向にあるため、前年に続き、KnKが支援する学校の授業において、アラビア語の読解や作文の時間を増やすなどの工夫をした。

◇心理ケアサポート◇

深刻なケースは見られなかったが、日常の学校生活で不満や課題を抱える子どもたちが、特に目立った事象がなくても、KnKのスタッフや教員に話をしに来る状況は頻繁に見られ、2023年は94回の個人面談がなされた。このような時間を通じて、日頃から信頼関係を構築しておくことで、深刻なケースに直面した時にも、子どもへの理解と適切なアプローチを準備しておくことができると考える。



サマーアクティビティでの運動会

パレスチナ ヨルダン渓谷における若者の社会参画支援および青少年、子ども支援の拡充

- 実施期間■ 2023年2月～継続中
- 実施地域■ パレスチナ自治区ヨルダン川西岸地区ジェリコ県ヨルダン渓谷4村
- 裨益者とその数■ 14～29歳の若者48名、1～16歳の子ども約300名
- 助成■ 日本国外務省「日本 NGO 連携無償資金協力」



◇若者向け能力育成研修◇

まずは自分を知り、自分の思いを適切な形で周りに伝えることや創造性について研修を実施した。その後、ToT(Training of Trainers: 地域活動を担う若者向け研修)では、チームで動くための意思決定プロセス、役割分担、交渉術を学び、実際に地域において活動をするために、計画性、問題分析、記録の付け方などを学べる研修を実施した。

研修に参加した若者からは、「ずっと家の中で過ごしていたけれど、研修を通して他の地域の友人もできた」「人前で自分の思いを話すのが苦手だったが、うまく発表できるようになった」「自分の地域はこのままずっと変わらないだろうと思っていたが、一緒に活動する若者たちと一緒に、村を良い方向に変えられるのではと思うようになった」といった声が挙がった。

◇子ども向け活動◇

子どもたちに音楽、演劇、美術の活動を提供できるよう、若者たちに研修を実施した。子ども向け活動では、スポーツ、音楽、演劇、美術、レクリエーションゲームなどの活動を地域ごとに毎週実施した。

子ども向け活動に参加する子どもたちには、子ども同士のケンカなど暴力が減った、人の話を静かに聞くようになった、活動開始の時間を守り、時間通りに活動場所に集まるようになったなどの前向きな変化が見られている。

◇保護者向けワークショップ◇

保護者からのリクエストを受け、3地域45名に実施した。参加者からは「子どもに対して手をあげるのではなく、話してしつける方法を学んだ」「家の中で子どもがどんな風に時間を使えばよいか、時間の使い方を学ぶことができた」などの声が聞かれた。



子ども活動に参加する子どもたち（上・下）

2023年10月7日、ガザ地区からイスラエルへの攻撃、およびイスラエル軍からガザ地区への攻撃があり、KnK活動地もイスラエル軍によるチェックポイントの設置、入植者による暴力行為、イスラエル軍による捜索が相次いだ。以降、子ども向け活動は中止、若者向け研修は対面ではなくオンラインで実施していたが、2023年12月からは、全ての事業を予定通り対面にて行っている。

情勢が不安定な中、若者や子どもたちの不安感やイスラエル軍による占領政策への不満、将来が見えない中での虚無感が高まったと感じるが、子どもたちは再開した活動に楽しそうに参加し、若者たちは前向きに研修に参加し、地域において自分たちができることをやろうと、以前よりも活発に活動に参加している様子がうかがえる。

パキスタン ハイバル・パフトゥンハー州における女子の中等教育へのアクセス拡大と質の向上

- 実施期間■ 2017年7月～2023年11月（2020年11月～中等教育に特化）
- 実施地域■ ハイバル・パフトゥンハー（KP）州アボダバード郡、バタグラム郡、マンセラ郡、トルガー郡
- 裨益者とその数■ 10歳から15歳の生徒1,957名、PTA24名、教員48名、女子大学生30名、地域住民
- 助成・パートナー■ 日本国外務省、Friends Welfare Association（FWA）



◇校舎建設◇

バタグラム郡とマンセラ郡で、**新設の中学校1校と中高一貫校2校の校舎施設を建設した**。その結果、この3校で計369名の女子が新規に入学または登録し、**既設2校では純就学率が支援開始前の25～35%から90%へと大幅に改善し、退学率は5%以下に減少した**。

◇ガールズサークル◇

学校内でガールズサークルを形成し、コミュニケーションや対人スキル、批判的思考や権利意識など、**思春期の青年に必要なライフスキル研修を実施した**。参加者からは、「自分の長所や改善点が特定でき、日常生活に不可欠な自信と回復力を築けた」「授業の出席率と中退率の逆転にも貢献したと思う」などの声が聞かれた。研修効果は、女子生徒の学校や日常の生活に顕著に表れ、彼女たちの積極性や自己肯定感を伴う行動は事業開始前と比較し各段に増した。



教員研修により授業に取り入れられたグループワーク

◇教員 & PTA 研修◇

研修受講後の教員による学びは、生徒の理解力改善や授業への参加促進に大きく影響した。PTAは研修で策定した学校改善計画を実行し、登校しない生徒の家庭訪問を行った他、防犯カメラや校舎修繕費用を教育局に申請し資金を得た。

◇アドボカシーグループ（CAG）◇

コミュニティ3カ所で組織化され、女子の抱える課題について学びあったり、学校に通っていない女子の家庭訪問をしたり、欠員となった校長のポストを補充するよう州政府に働きかけ、州政府が動き出すなど結果をもたらした。



高校生と対話するガールズ・ユース・アンバサダー（右）

◇ガールズ・ユース・アンバサダー（GYA）◇

女子大学生30名が女子中高生のロールモデルとなり、メンターとしての役割を担うと同時に、生徒たちから聞き取った声を政策レベルまで持っていくパイプ役を果たしている。女子も教育を受けられるよう嘆願する署名活動では、1,500名の署名を集めた。CAGとGYAによるトークイベントはテレビニュースやYouTubeを通じ、市民の関心を引いた。また、全国青年議会の支部であるKP州青年議会にGYAメンバー計18名が登録し、議会の進行や政策提言作成の会議を視察、提言が国レベルへと提出されるプロセスなどを学習した。KP州青年議会に提出されたGYAの署名は今後、全国の青年議会で承認され、2024年の選挙後にKP州の議会へ提出される予定である。

【緊急支援】 水害被災者へのシェルター支援及び飲料水の水質改善

- 実施期間■ 2023年3月～2023年7月（2022年9月に緊急支援を開始）
- 実施地域■ シンド州、バロチスタン州
- 裨益者とその数■ のべ約10,000人
- 助成・パートナー■ 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム（JPF）、Community Development Foundation（CDF）、SHIFA Welfare Association-SHIFA

国土の3分の1が水没した2022年の大洪水では、計200万戸以上の家屋が損壊または全壊した。推定500万人以上が被災して生活の場を失い、安全と健康が損なわれた。最も深刻な被害を受けたシンド州とバロチスタン州では、被災者の約55%が十分な水を利用できない状況であった。さらに、野外での排泄習慣が増え、水を媒介とする病気や感染症のリスクが高まり、子どもたちの健康にも悪影響を及ぼした。この2州は、以前から食糧不安や栄養失調、貧困の蔓延する地域で、基本的ニーズが未だ満たされず、深刻な状況が長引いていた。KnKは被災世帯の切迫するニーズに対応すべく、2023年も緊急支援を継続した。

（*）UNOCHA, PAKISTAN: 2022 Monsoon Floods Situation Report No. 13, 6th January 2023



避難所で遊ぶ子どもたち

◇仮設シェルター・テント支援◇

計240世帯1,678名が安全な暮らしを取り戻した。元の住まいへの帰還をできる限り優先し、それぞれの状況により最適な支援方法を選択した。具体的には、1) 家屋が全壊したが元の居住地の水が引いており、自宅に戻ることが可能な100世帯に仮設シェルターを提供、2) 元の居住地への帰還の見通しがなく、停留水付近の高台に避難せざるを得ない100世帯にテントを配布、3) 部分的に損壊したが既存の家屋を利用可能な40世帯に家屋修理の資材や技術を支援した。



きれいな飲み水を汲みに来た少女

◇トイレ設置◇

屋外排泄などコミュニティの衛生状態が悪化したため、**50名に1基の割合で共用トイレ計34基をコミュニティ内に設置した**。

◇水のろ過装置◇

計13カ所に設置し、計8,792名の人々が安全な水を利用できるようになった。あわせて、各給水所で水管理委員会が形成され、ろ過装置の維持管理法を検討し、改良を図った。

◇事業後の調査◇

「安全な生活や衛生環境を回復できた」と回答した世帯の割合は100%、「地域の公衆衛生が守られている」は89.5%、「安全な水へのアクセスを回復した」も100%と高評価であった。コミュニティの信頼獲得に現地チームが努めた結果、シェルターやトイレ建設の研修には当初見込みの約6倍の参加者が得られた。対象地はもともと自然災害の多い地域で、塩水の影響から校舎の老朽化も進んでいる。2024年よりKnKは、バロチスタン州の脆弱な学校インフラの再建事業を開始し、女子が安心安全に通える学校環境を支援する。

友情のレポーター

「友情のレポーター」は、日本にいる青少年に向けた教育プロジェクトで、日本在住の11歳から16歳までの子どもを公募で選抜し、KnKが教育活動を展開する活動地へ派遣している。レポーターたちは、現地の様子や支援を受ける子どもたちを取材しながら、彼らと交流して相互理解を深め、帰国後は取材したことを自らの言葉で学校や地域、メディアで発信し、国境を越えた人々の理解を促進する役割を担っている。

1995年の開始から34回、これまでに計68名のレポーターが派遣された。新型コロナウイルスにより4年間実施できなかったため、今回は対象年齢を18歳に引き上げて公募を行った。



バングラデシュの子どもたちと交流する友情のレポーター

第34回友情のレポーター（2023年夏休み）バングラデシュ取材

まつもと かなみ 松元 夏和さん（派遣当時17歳／京都府）、おちあい あおい 落合 碧さん（派遣当時11歳／東京都）

- 選出方法■：日本在住の11歳から18歳の子どもを対象に公募し、課題レポートと電話面接にて選出
- 応募者数■：68名
- 審査員■：安田 菜津紀氏（フォトジャーナリスト／特定非営利活動法人 Dialogue for People 副代表理事）
荻上 チキ氏（評論家、ラジオパーソナリティー）
- 派遣日程■：2023年8月3日（木）～8月10日（木）
- 取材場所■：バングラデシュ 首都ダッカ
- 助成■：公益財団法人三菱UFJ国際財団
- 協賛■：シンガポール航空、国際ソロプチミスト東京ー広尾
- 協力■：特定非営利活動法人 Dialogue for People

「友情のレポーター」2名は、バングラデシュ滞在中、ダッカにある「ほほえみドロップインセンター（DIC）」を訪問し、日本紹介プログラムとして松元さんは少林寺拳法を、落合さんはラジオ体操を披露し大きく盛り上がった。また、両名はスラム地域で家庭訪問を実施し、2世帯でインタビューを行い、若くして子どもを育てている少女の力強さを目の当たりにした。

取材活動を通じて、「友情のレポーター」たちは、バングラデシュの子どもたちのキラキラした瞳に魅了され、この国を好きになったが、一方では路上にゴミが散らかる光景を目

の当たりにし、大人への教育も必要であると気づいた。

松元さんは今回の取材後、「気付く力」と「違和感を覚える感覚」が大切だと語った。「当たり前の状況は気づきにくいもの。それを違和感として感じれば、その国がもっと良くなるのではないかと考えるようになったという。

落合さんは「バングラデシュに来て頭がグチャグチャで自分に何ができるのかわからなくなりました。しかし、現地の子どもたちが必死に生きて笑顔でいることは脳裏に焼き付いています」と話している。

帰国後レポート（抜粋）

歩いていると、栈橋の端っで10歳くらいの男の子が床で寝ている。1メートルくらいの汚い青い布を敷いているだけだった。手も足もその布からはみ出していた。道で子どもが寝ている光景を目にしたのはそれが初めてで息が止まりそう。同じくらいの年齢の子どもなのと思うと、何かがこみあげて苦しくなった。

DICに通う男の子たちが、私たちを見つけて笑顔で駆け寄ってきてくれた。その子たちに、いつもどこでどんな風に寝ているのか見せてもらった。栈橋の端で、大きいビニール製の袋を床にして二人が寝転がった。すごく狭そうだった。この敷物は、個人のものではなく、ストリートチルドレンの共有物で栈橋の柱にくくられていて、みんなで使っている。

子どもたちとジェスチャーを交えながら話をしていた。すると突然、通行人の男の人が、一緒に話していた男の子を叩いた。さっきまでの笑顔は消え、おびえていた。私はあまりに突然で、驚いてしまったしこわくなった。スタッフさんの話だと、道にいて邪魔だと思ったから叩いてどかさうと思ったのではないかとのことだった。理由はなんであれ、叩かれたり蹴られたりするかもしれないと思って生活するなんて。本当に安心からはほど遠い環境で生活しているのだなと思った。また私は苦しくなってしまった。

友情のレポーター 落合碧

写真展／友情の5円玉キャンペーン

私はこの1週間のバングラデシュの旅の中で、自分の意見が変わる瞬間や、自分の価値感すらも変わってしまうような瞬間がたくさんありました。そういう瞬間に巡り合える機会をもらったことを、本当に感謝しています。でもこの1週間は私の中のスタート台にすぎなくて、これからは旅を通して得た経験や思いを色んな人に伝えたり、私の中のバネにして、たくさんの方の活動につなげていきたいと考えています。色んな人に伝えると書きましたが、まずは私が小学4年生のときに発展途上国のことを初めて知って、日本とは違う世界を知って、大きな衝撃を得た経験から、日本各地の小学校をまわり、バングラデシュで私が見て、聞いて、感じたことについて伝えていけたらと思っています。その方法として、小学生にも伝わりやすいようにオリジナルの絵本を製作し、

それを持って日本中を飛び回ろうと考えています。私のように、発展途上国に興味をもってもらいたいとかそういうわけじゃなくて、今見ている景色や当たり前は日本だけのものであって、世界を見てみるともっといろんな景色があって、当たり前があるんだよ。というようなニュアンスで伝えていけたらと思います。

そして、「すべての教育を受けられていない子どもたちが、それぞれにあった形で教育を受けることができるような制度とは」、「世界中の子どもたちが幸せに暮らすためには」この疑問を常に心に留めながら、これから一生をかけて活動していきたいと思っています。

友情のレポーター 松元夏和

KnK写真展「フィリピン 路上のパレット」撮影：関健作（写真家）

4月、フィリピンを訪れた写真家・関健作氏は、路上生活している子どもたちやKnKが支援している子どもたちを撮影し、それらの写真をキャンバスにして子どもたちが「自分自身」を描くワークショップを行った。絵の具は水で薄められることもない。筆は洗われることなく、色から色へと移動していく。フィリピンの子どもたちが使ったパレットは彼らそのものであった。9月、その作品をKnK写真展「フィリピン 路上のパレット」で展示した。9月16日（土）には関氏によるギャラリートークをアナウンサー渡辺真理氏の司会でを行った。



関氏と渡辺氏によるギャラリートーク



関氏の写真に子どもたちが自由に筆を走らせた作品

来場者の声

「子どもの絵、特に色使いは心の中をあらわすと聞きます。今回のこの写真展の取り組みは子どもの心の中の様子も伺えるような感じでキャプションを読みながら心打たれました。」

「日々の暮らしに追われている子どもたちの中にねむっている、力強さ、可能性、生命力を感じました。」

硬貨取扱料金の導入に伴い、郵便局の料金免除口座を開設／友情の5円玉キャンペーン

各金融機関による硬貨取扱手数料の徴収が施行された。5円玉などの硬貨を集める友情の5円玉キャンペーンでは、募金額より手数料が上回ってしまうことが想定されたため、2023年度より、郵便局の料金免除口座を開設した。

主に小中高校生を対象とした当募金プログラムは本年で

第46回目を迎えた。2023年は、全国から19校、1企業、そして個人の方にご参加いただき、その他の学校法人寄付などと合わせて1,737,068円（前年比153%）となり、コロナ禍にもかかわらず、たくさんの5円玉を集めてくださった。集まった募金は海外での活動に充当した。

様々なチャリティ

東京マラソン 2023 が開催されました。チャリティランナーの皆さま、お疲れさまでした！



©東京マラソン財団
東京マラソン 2023 の様子

東京マラソン 2023

東京マラソン 2023 が 3 月 5 日（日）に開催、国内外から集まった KnK のチャリティランナー 88 名が出走した。本年は沿道応援も解禁され、KnK スタッフがスタートから 14 キロおよび 31 キロ地点の茅場町で応援した他、東京国際フォーラムにチャリティラウンジを設置し、完走したランナーを受け入れた。

* 国境なき子どもたち (KnK) は、東京マラソン財団チャリティ RUN with HEART の寄付先団体です。
東京マラソン財団チャリティ RUN with HEART 公式ウェブサイト <https://www.runwithheart.jp/>

東京レガシーハーフマラソン 2023

10 月 15 日に開催された東京レガシーハーフマラソン 2023 では、チャリティ・アンバサダーとして芸人でランナーの猫ひろしさんが「青いたすき」をかけて走ってくださった。当日は雨天にもかかわらず、ジュニパーネットワークス株式会社有志によるご協力を得て、神保町にて 12 名のチャリティランナーに声援を送った。



©東京マラソン財団
アンバサダーの猫ひろしさん
東京レガシーハーフマラソン 2023 の様子



©東京マラソン財団
完走の喜びを分かち合う KnK のチャリティランナー

大リーガー吉田正尚選手、カンボジアを訪問

「子どもたちの輝く笑顔を直接見ることができて、少しでも力になれていることに胸が一杯になりました」
(吉田選手)

ボストン・レッドソックスの吉田正尚選手は、2019 年から KnK を通じて子どもたちをご支援くださっている。昨年 12 月に初めてカンボジアの「若者の家」を訪問していただいた。「若者の家」の青少年や卒業生、識字・英語教室に通う近隣の子どもたちが集まり、皆で「スタンドバイミー」を合唱するなどして吉田選手を歓迎した。

子どもたちになぜ支援が必要なのか、その背景や支援を受けた後のことを知っていただこうと、「若者の家」在住生と卒業生の 2 名がそれぞれの自宅を案内する場面もあった。卒業生のソックレンは、現在、近隣に住む子どもたちを対象に自宅で塾を開講している。得意な英語で、自分の塾について熱心に、そして嬉しそうに吉田選手に説明してくれた。

カンボジアといえば世界遺産のアンコール・ワット。ここでは「若者の家」の卒業生、ロウが案内役を務めた。彼は大学卒業後、英語とドイツ語の公式ガイド資格を取りシエムリアップで働いている。女の子 3 人のお父さんとしてコロナ禍の苦難も乗り越え、今回は吉田選手の対応を見事に果たしてくれた。

短い視察日程だったが、吉田選手は「今後もできる限り支援を続けたい」とおっしゃってくださった。



「若者の家」の識字・英語教室に通う子どもたち



アンコール・ワットにて。吉田選手とロウ（左）

AERA 2023 年 2 月 20 日



女性自身 2023 年 4 月 11 日



朝日新聞 SDG's ACTION
2023 年 3 月 12 日



朝日新聞 SDG's ACTION 記事のスクリーンショット

朝日小学生新聞 2023 年 8 月 27 日



神奈川新聞 2023 年 9 月 5 日



こども新聞 2023 年 12 月 1 日



【団体組織】

■理事会■

2023 年末現在、国境なき子どもたちの理事会は次の通り構成されている。また、NPO 法上の社員に相当する評議員は、2023 年末現在、計 68 名である。

会長	寺田 朗子			
専務理事	ドミニク レギュイエ			
理事	アグネス G. キトリアーノ	常田 高志	ローラン デュボワ	
	栗林 まどか	玉村 翔吾	守谷 慧	
	君島 梨央	大竹 綾子	松浦 ちはる	清水 匡
監事	水野 太洋子			

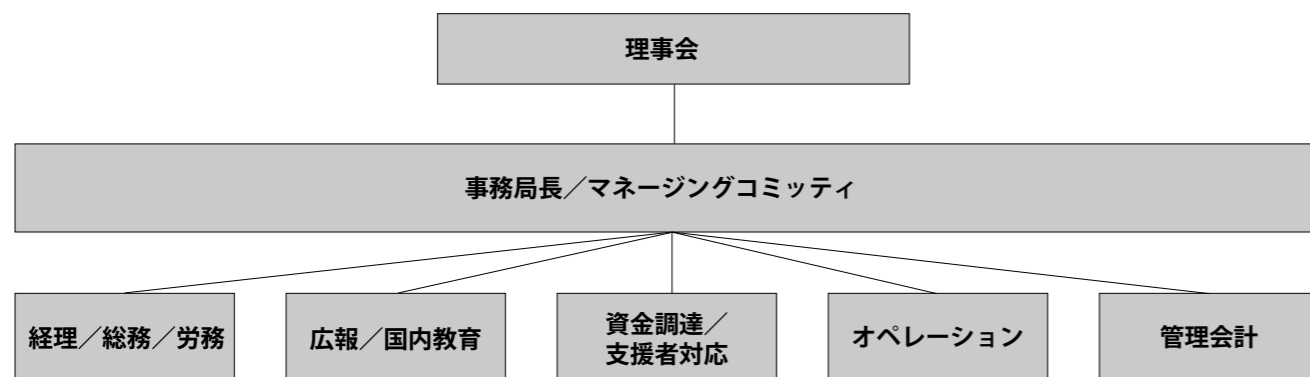
■東京事務局／海外派遣員／アルバイト／インターン／ボランティア■

東京事務局	マネージング コミッティ	大竹 綾子	清水 匡	松浦 ちはる
	職員	7 名		
	アルバイト	0 名		
	インターン	1 名		
	ボランティア	2 名 (常勤)、翻訳・校正・イベントボランティアの皆さま		
海外派遣員		2 名 (ヨルダン)	2 名 (パレスチナ)	
		3 名 (カンボジア)		

■マンスリーサポート／支援会員■

マンスリーサポート参加のべ件数	920 件
支援会員 (一般・学生)	137 件
法人正会員	3 社
法人賛助会員	2 社

組織図

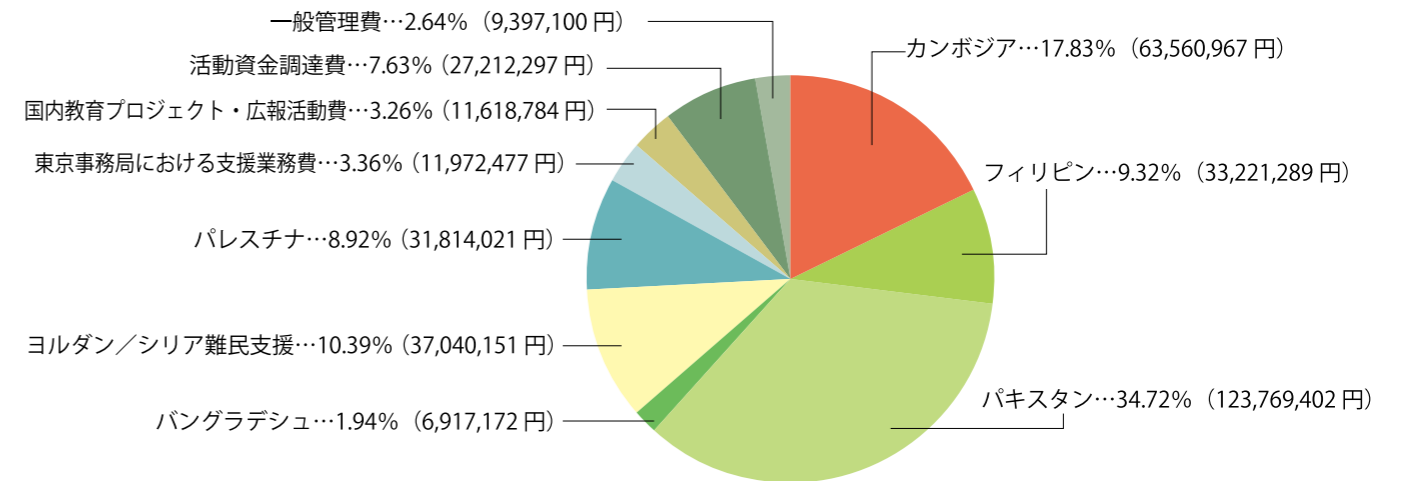


2023 年度収支報告

2023 年は、経常支出 356,523,660 円のうち、総援助事業費 (すなわち活動地における援助事業費 + 東京における事業実施運営費 + 国内教育プロジェクト費・広報活動費) が全体の 89.7% を占めた。

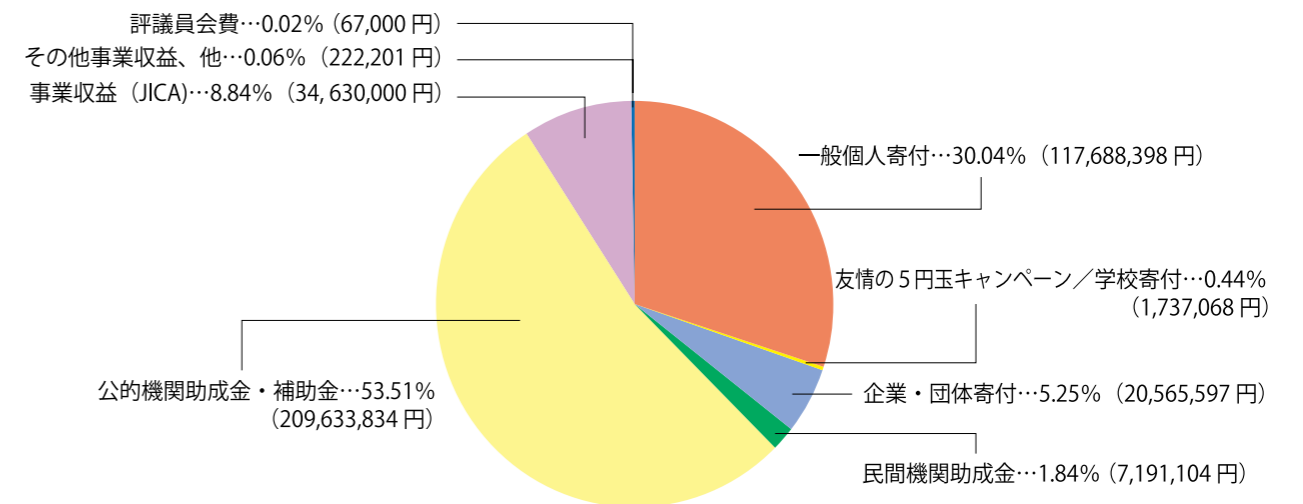
2023 年 経常支出の部

合計 356,523,660 円



2023 年 経常収入の部

合計 391,735,202 円



公認会計士の監査を受けた財務諸表は KnK ウェブサイト (<https://knk.or.jp/knk/account/>) で公開しております。また、郵送をご希望の方は事務局までご請求ください。

謝辞

国境なき子どもたちの2023年度における世界での活動に対し、
温かいご理解とご支援をお寄せくださいました皆さまに心より御礼申し上げます。(順不同、敬称略)



株式会社 UnByte



伊藤忠商事株式会社



癒しと温かな手の学校



エクスペディアグループ



ギークス株式会社



G2 Studios 株式会社



株式会社ジャックス



ジュニパーネットワークス株式会社



株式会社小学館



リンベル株式会社



ソフトバンク株式会社



株式会社タムラ製作所



TYSONS & COMPANY

株式会社タイソンスアンドカンパニー



寺田倉庫株式会社



株式会社トーハン



ブックオフコーポレーション株式会社



Bookcafe days



ビープルポート株式会社



フレックス株式会社



メイキットコープ株式会社

【法人正会員】

株式会社 UnByte / 株式会社チームメイプル / 株式会社マジオネット

【法人賛助会員】

株式会社 MT Globe / 株式会社 Mim コンサルティング

【企業の皆さま】

株式会社アイデム / アイデムフォトギャラリー「シリウス」 / 株式会社あおい不動産アドバイザーズ / アド・イタリア株式会社
株式会社イニユニック / 株式会社 NYC / カットインタイム / 金坂医院 (千葉県) / KPMG コンサルティング株式会社
G.I.P. Tokyo / 株式会社ジェイディ / 食卓パンの店ロコパン / シンガポール航空 / 株式会社セーフティ&ベル
積水ハウス株式会社 / 株式会社東京ターミナル / Haco Works 株式会社 / 株式会社ハレバレ / 株式会社 Building Face
株式会社フレックスインターナショナル / 株式会社 HELL OF HEAVEN / 株式会社ベル
ヘンケルジャパン株式会社 / シュワルツコフ プロフェッショナル事業本部 / 株式会社堀内カラー
マナトレーディング株式会社 / 株式会社ミスター・パートナー
LINE ヤフー株式会社 / 合同会社ワンアート、ほか

【個人の皆さま】

個人支援者の皆さま / マンスリーサポーター、一般会員、学生会員の皆さま
国境なき子どもたち (KnK) 事務局 & イベント & 翻訳ボランティアの皆さま、国境なき子どもたち (KnK) 支援委員会の皆さま
友情の5円玉キャンペーンにご参加くださった小中高校生と一般の皆さま
バレンタイン & ホワイトデー「+1」キャンペーン2023にご参加の皆さま
国境なき子どもたち (KnK) 主催・共催イベントにご参加の皆さま
安田菜津紀さま / 佐藤慧さま / 荻上チキさま / 渡辺真理さま / 関健作さま
坂本龍一さまとご相続人さま / 猫ひろしさま / 伊東純也さま / PASCAL MARIE DESMARAIS さま
ボストン・レッドソックス吉田正尚さまと Syncable を通じてご賛同の皆さま / エクスペディアグループ社員の皆さま
ギークス株式会社社員の皆さま / KPMG コンサルティング株式会社社員の皆さま / G2 Studios 株式会社社員の皆さま
株式会社ジャックス役職員の皆さま / ジュニパーネットワークス株式会社社員の皆さま / ソフトバンク株式会社社員の皆さま
積水ハウスマッチングプログラムの会の皆さま / ソフトバンク「つながる募金」ご参加の皆さま
ブックオフ「キモチと。」ご参加の皆さま / Yahoo! ネット募金ご参加の皆さま / ZEROPC「想うプロジェクト」にご参加の皆さま、ほか

【学校教育関連機関の皆さま】

岩手県高等学校教職員組合 / 雙葉学園同窓会 / 雙葉小学校 / 雙葉小学校附属幼稚園
田園調布雙葉中学高等学校エリザベット会 / 大阪スクールオブミュージック高等専修学校
京都府亀岡市立育親中学校、亀岡中学校、東輝中学校、詳徳中学校、別院中学校、南桑中学校、大成中学校、亀岡川東学園の各生徒会
恵泉女学園中学・高等学校文化祭実行委員会 / 自由学園 / 頌栄女子学院 / 全国退職女性校長会 (梅の実会)
普連土学園 / ラ・サール学園 / 学校法人信望愛学園 山口天使幼稚園 / 愛知県春日井市立松原小学校 / 宮城県仙台東高等学校、ほか

【民間機関の皆さま】

一般社団法人いけばなインターナショナル / 公益財団法人ウェスレー財団 / かみひとねっとわーく京都
特定非営利活動法人国際協力 NGO センター / 特定非営利活動法人国際支援活動協会 / 生活協同組合パルシステム東京
国際ソロプチミスト東京 - 広尾 / 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム / 宗教法人真如苑 / 全国友の会
認定 NPO 法人 Dialogue for People / 一般財団法人東京マラソン財団 / 公益財団法人東京 YWCA 国際語学ボランティアズ (ILV)
東京ウィメンズクラブ / 公益財団法人日本国際協力財団 / 一般社団法人日本弱酸性美容協会
特定非営利活動法人ベースボール・レジェンド・ファウンデーション / HOME18 岡山・ヨノナカ実験室
公益財団法人報知社会福祉事業団 / 公益財団法人三菱 UFJ 国際財団 / 一般財団法人ゆうちょ財団、ほか

【公的機関の皆さま】

日本国外務省 / 独立行政法人国際協力機構、ほか

お預かりした貴重なご寄付は、各地の青少年への教育・自立支援活動などに大切に使用させていただきます。
世界における中長期的な活動に向けて、2024 年以降も引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。

【ご支援のお願い】

これからも子どもたちの尊い学びを支え続けてください。

※ KnK は東京都知事より認定を受けた「認定 NPO 法人」です。ご寄付は、確定申告により税控除を受けることができます。

<いろいろな支援の方法があります>

◎マンスリーサポーター（毎月定額を自動引落し）

KnK マンスリーサポーターになってくださる方が増えますと、長期にわたり安定して子どもたちへの支援計画を立てられ、子どもたちが安心して学校に通い生活できます。KnK はマンスリーサポーターになってくださる方を心からお待ちしています。すでにマンスリーサポーターでいらっしゃる皆さまには、日頃のご支援に心より感謝申し上げます。この機会に増額をご検討いただけますと幸いです。

- ・ 月 1,000 円からご支援いただけます。
- ・ 金融機関からの自動振替により、お振込みの手間が省けます。
- ・ 右のマンスリーサポート申込書または KnK ウェブサイトでお申込みください。
- ・ クレジットカードからの自動振替をご希望の方は KnK ウェブサイト上でのみ受付けております。

◎支援会員（年 1 回のご納入）

年間を通じて、いつでもお振込みいただけます。年度会費はすべてのご寄付と同様に KnK の支援活動費に充当されます。KnK に対する権利や義務を伴うものではありません。毎年継続の義務はございませんが、子どもたちに安定した支援を行うために、できましたら継続してお納めいただけますようお願いいたします。クレジットカードからは、毎年 1 回の自動継続振替を承ります。

一般会員 12,000 円 学生会員 5,000 円
法人正会員 100,000 円 法人賛助会員 50,000 円

- ・ 本報告書に添付された郵便払込用紙または KnK ウェブサイトでお申込みください。
- ・ 法人会員につきましては、年次活動報告書やウェブサイトでお名前をご紹介させていただきます。

◎ 随時（単発）寄付

ご都合のよい時に、任意の金額でいつでもご支援いただけます。右の振込手数料など免除の口座宛の郵便払込用紙でゆうちょ銀行の窓口から、または KnK ウェブサイトでクレジットカードからお申込みください。右の QR コードをスマートフォンやタブレットのカメラで読み取ると KnK ウェブサイトが表示されます。



knk.or.jp

◎ 遺贈・相続財産からの寄付

大切な方やご自身の遺産を、困難な状況にある子どもたちの未来にお役立てください。遺贈とは、遺言により財産のすべて、もしくは一部を無償で譲与するもので（民法 964 条）、相続財産からのご寄付と共に相続税の課税対象から除外されます。遺贈について詳しく説明したパンフレットがございますので、KnK 東京事務局へご請求ください。



遺贈パンフレット

【支援に関するお問い合わせ先】

サポーター専用 TEL : 03-6279-1128（平日 10:00 から 18:00） メール : shien@knk.or.jp

ご住所		に参加します
お名前	フリガナ	<input type="checkbox"/> 毎月 円 (50 円×20 日) <input type="checkbox"/> 毎月 円 (50 円×30 日) <input type="checkbox"/> 毎月 円 (50 円×30 日×2 口) <input type="checkbox"/> 毎月 円 (任意のご支援額)
お電話	() -	
メールアドレス	@	性別 <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 無回答 生年 西暦 年

「マンスリーサポート」にぜひご参加ください。便利な「マンスリーサポート」をご利用いただけます。①民間金融機関または②ゆうちょ銀行をお選びください。国境なき子どもたち(KnK)へのご寄付は、となり、確定申告により「マンスリーサポート」の受領書は毎年 2 月第 1 週に前年分の寄付をまとめてお送りいたします。この用紙を切り取り、のりしろで貼り合わせると封筒になります。切手は不要です。

預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書 (収・加) AR24

① 民間金融機関		② ゆうちょ銀行	
金融機関コード	支店コード	種目コード	記号(※必ず記入ください)
	フリガナ	166301	0
預金種目	口座番号	払込先口座番号	払込先加入者名
1. 普通(総合) 2. 当座	フリガナ	00120-2-727950	特定非営利活動法人 国境なき子どもたち

口座名義人	フリガナ	お届印
-------	------	-----

- ◆ 振替・払込日は毎月 27 日(土日祝日の場合は翌営業日)
- ◆ 自動振替は変更・停止のご連絡がない限り、2 年日以降も継続させていただきます。マンスリーサポートの変更・停止は国境なき子どもたちまでご連絡ください。(ゆうちょ銀行を除く)
- ◆ 皆さまの個人情報は厳重に管理し、国境なき子どもたちからの活動状況のお知らせなどの目的にのみ使用し、第三者への個人情報開示は行いません。国境なき子どもたちの個人情報保護方針は、ウェブサイトからご覧いただけます。knk.or.jp/privacy

1. 印鑑捺印 2. 印鑑不捺印 3. 預金種目相違 4. 口座番号相違 5. 若者人相違 6. 預金帳なし 7. 支店名相違 8. その他	振印 印鑑照合 受付印
---	-------------------

のりしろ(上端と貼り合わせてください)

随時のご寄付

認定 NPO 法人国境なき子どもたちへの寄付は、寄附金控除等のこの用紙で窓口での払込には手数料がかかります。また、

払込取扱票

99	口座記号番号	金額	千 百 十 万 千 百 十 円
	00190-2-364946		
加入者名	特定非営利活動法人 国境なき子どもたち	料金	備考 免
おとこ・おなまえ (郵便番号)			
ご依頼人・通信欄	様		
	(電話番号)		生年 西暦 年
	<input type="checkbox"/> 12,000 円 <input type="checkbox"/> 9,000 円 <input type="checkbox"/> 6,000 円 <input type="checkbox"/> 円 (任意のご支援額)		
	<input type="checkbox"/> 一般 12,000 円 <input type="checkbox"/> 学生 5,000 円 <input type="checkbox"/> 法人正会員 10 万円 <input type="checkbox"/> 法人賛助会員 5 万円		
	<input type="checkbox"/> 世界各地で助けを必要とする青少年の教育支援・生活支援のために寄付します。 <input type="checkbox"/> 国境なき子どもたちの支援会員/法人会員として年度会費を納入します。		
	メールアドレス (メールマガジンをお届けします)		
	@		
	ご依頼人欄に、おとこ・おなまえをご記入ください。(承認番号 第62489号)		
	これより下部には何も記入しないでください。		

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	00190-2-364946
加入者名	特定非営利活動法人 国境なき子どもたち
金額	千 百 十 万 千 百 十 円
ご依頼人	様
料金	円
備考	

この受領証は、大切に保管してください。



認定 NPO 法人 国境なき子どもたち (KnK)

2023 年度活動報告書

2024 年 5 月 15 日発行

禁 無断複製・転載

認定 NPO 法人 国境なき子どもたち (KnK)

会長 : 寺田 朗子
専務理事 : ドミニク レギュイエ

東京事務局 : 〒161-0033 東京都新宿区下落合 4-3-22
TEL : 03-6279-1126
サポーター窓口 TEL : 03-6279-1128
FAX : 03-6279-1127
E-mail : kodomo@knk.or.jp
URL : knk.or.jp



写真クレジット : 清水匡、国境なき子どもたち
表紙写真 : バングラデシュの子どもたちと現地スタッフ
印刷・製本 : 株式会社イニユニック

この冊子は TechSoup Japan より寄贈されたアドビ・ソフトウェアにより編集されました



これは、JANIC の「アカウンタビリティ・セルフチェック 2021」マークです。
JANIC のアカウンタビリティ基準の 4 分野（組織運営・事業実施・会計・情報公開）について
当団体が適切に自己審査したことを示しています。